

<h3>奴隷道德</h3> <p>弱者が強者に対してルサンチマン的になり「強者は悪」や「弱者であることがよい」などという道德に縛られること、ニーチェはこの奴隷道德の典型がキリスト教であると強く批判している。</p>
<h3>永劫回帰</h3> <p>何事も繰り返される可能性を秘めているという思想、辛いことや苦しいことも繰り返される可能性がある。しにたい、ニーチェはこの考えに辿り着いたとき7日間寝込んだらしい。</p>
<h3>運命愛</h3> <p>永劫回帰を受け入れること、「努力しても無駄だ」とニヒルになるのではなく、どのようなことも自分が欲したと思うこと、他人を羨んで嫉妬に駆られても、自分の運命を憎んでもなにも変わらないよね〜〜〜という考え。</p>
<h3>積極的ニヒリスト</h3> <p>ニヒリストが「おれの人生は無意味！どうでもいいわ」というスタンスならば積極的ニヒリストは「おれの人生は無意味！だからこそ自由に生きてやる」というスタンス、自分の人生に積極的に向き合い、人生を危険に晒すこと。</p>
<h3>力への意思</h3> <p>今よりもっと強くなろうとすること.今の環境に不満ならば斜に構え自分を納得させるのではなく、立ち向かい乗り越えていくこと、要するにガッツ。</p>
<h3>自己超克</h3> <p>自分で自分を超えていくこと、行動の理由を他人に押し付けるのではなく、「自分自身がこうしたいからこうした」と自分自身の主人であることにより、自分の人生を愛することができるのかもしれない。</p>